



診療技術部だより



令和5年11月

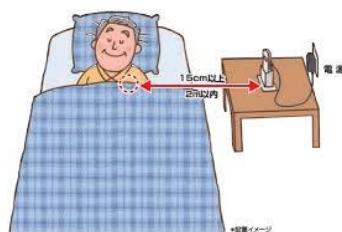
Vol.25 臨床工学科

今回のテーマ ペースメーカーの遠隔モニタリングについて

臨床工学科は臨床業務がほとんどですが、ペースメーカー等を植え込まれた患者様の管理も行っています。ペースメーカー等は技術の進歩とともにMRI検査が可能になったり、遠隔で管理できるようになりました。今回はペースメーカー等の遠隔モニタリングについて紹介したいと思います。

遠隔モニタリングとは

ペースメーカーは、今まで専用の器械を使用しないと検査や点検ができませんでした。また、器械を直接ペースメーカーに当てて点検するので、患者様には直接病院へ来てもらうしか点検の手段はありませんでした。そして、2016年に遠隔モニタリングが普及し始めます。当院では2021年に導入しました。遠隔モニタリングとはその名前通り、遠く離れた場所からでもペースメーカーの状態を見ることができます。見ることはできませんが、不整脈や異常等の早期発見に繋がります。当院では、患者様と相談して導入しています。患者様が何かしなければならぬということはなく、イラストの様に、設置しておくだけで寝ている間にデータを収集しますので簡単に使用することができます。



現在の当院での運用

- ①ペースメーカー植え込み術
 - ②退院までに術後のペースメーカー点検
 - ③ペースメーカー関連の説明(遠隔モニタリング導入含む)
 - ④ペースメーカー外来への定期通院(半年 or 1年)
- ※遠隔モニタリングは月1回電子カルテに記載 不整脈等はDr.報告

遠隔モニタリング可能な機械

- ・ペースメーカー
- ・リードレスペースメーカー
- ・植え込み型除細動器(ICD)
- ・植え込み型心電計
- ・両心室ペーシング機能付き植え込み型除細動器(CRT-P,CRT-D)



遠隔モニタリングを用いたペースメーカー外来の業務改善

ペースメーカー外来とは？

1年を前期と後期に分け、毎週月曜日にペースメーカー患者様の点検を行う外来

ペースメーカー外来の流れ

従来
ペースメーカー直接点検 ⇒ Dr.診察



改善後(遠隔モニタリング導入)
Dr.診察のみ
※不整脈等あれば直接点検します

患者さんのメリット

- ・患者様の外来待ち時間短縮
- ・予約外来患者様の分散化

なぜ可能になったのか？

遠隔モニタリングを使用することにより、事前に状態を把握することができるようになったからです！不整脈等の発生時刻や持続時間も知ることができます。

こんなことも！

植え込み型心電計も遠隔モニタリングを導入していますので、不整脈等の早期発見からペースメーカー等へ移行できた患者様もいます。また、患者様と会話するきっかけにもなりますので、とても重宝しています。

今後の展望

現時点での遠隔モニタリング導入対象はペースメーカー、ICD、CRT-P、CRT-D、植え込み型心電計の新規植え込み患者様です。目標は全患者様を対象に導入することですが、患者様やご家族の意向もありますので難しいと思います。遠隔モニタリング導入は今後も増えていくことが予想されます。当院での運用を踏まえたうえで、今回業務改善として見直すことができました。今後、また運用方法を見直しつつ、不整脈の早期発見や患者様に合った設定の変更を効率よくできるように努めていきます。

